

# リモートスカイドリル (無線操縦式バックホウドリル)

PAT.P

NETIS登録番号 KT-220147-A



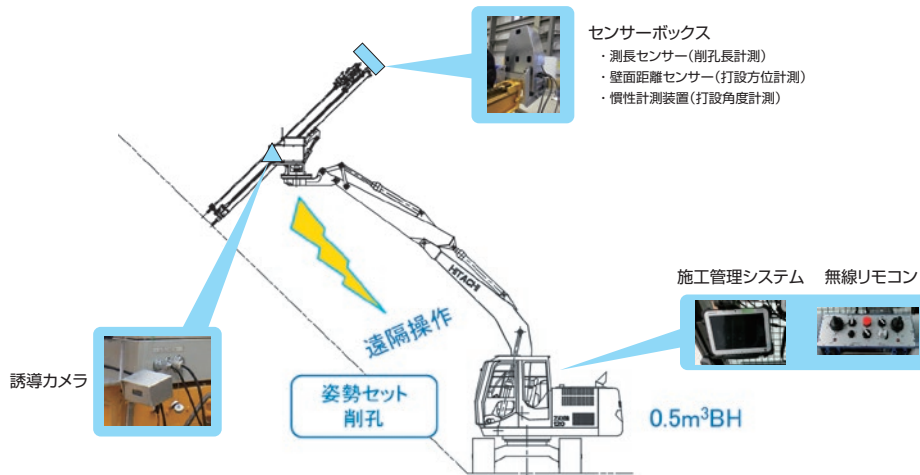
鉄筋挿入工(ロックボルト工)における生産性向上を可能にするICT削孔システム

リモートスカイドリルは、鉄筋挿入工(ロックボルト工)における省人化、施工性、生産性の向上を可能にするICT削孔システムです。

## 特長

- 無線式操作盤の採用や動力源の油圧をバックホウ本体との共用による付帯装置の集約により、マシンセット時の機動力が向上
- ドリル本体の軽量化により、**0.5m<sup>3</sup>(新JIS)のバックホウに搭載可能**となり、従来より狭隘な環境にも適用可能
- 空圧削孔から油圧削孔での変更により使用する軽油が大幅に削減でき、**CO<sub>2</sub>の排出量を半減**  
※自社従来機との比較
- 誘導カメラや施工管理システムの搭載により、マシンセット～削孔作業～削孔長管理までの**一連の作業がバックホウオペ1名で可能**
- 施工管理システムにより、**各種施工データ(施工日時、施工位置、姿勢角度、削孔長等)の記録が可能**

## システム構成



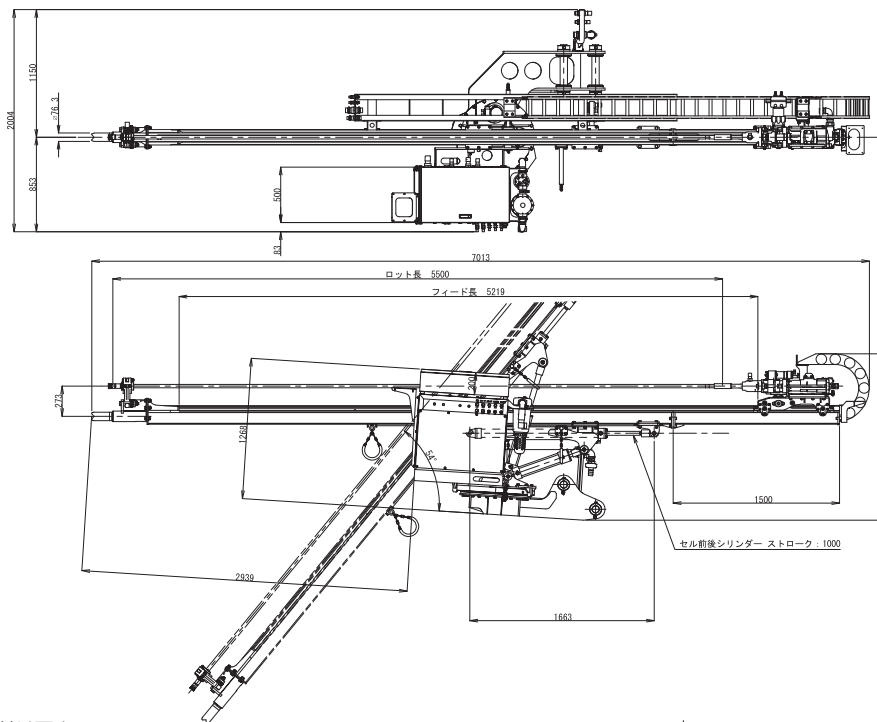
## 従来機との比較

	従来型バックホウドリル	リモートスカイドリル
削孔作業	<p>バックホウオペ 削孔機オペ</p> <p>※バックホウオペと削孔機オペの作業員2名が必要</p>	<p>操作付帯物の軽量化 無線リモコンで操作</p> <p>※マシンセット～削孔までの諸作業がバックホウオペ1名で実現</p>
施工管理	<p>削孔角度検測 削孔長検測</p> <p>※打設角度や削孔長の計測に専門の法面作業員1名が必要</p>	<p>削孔開始 削孔位置誘導画面 削孔長の計測画面</p> <p>※PC画面を確認しながらバックホウオペが施工管理を兼務</p>

## 仕様

適用ツール	ロット型式	32HMH-5.5M
	ビット径	φ38~φ65
掘削姿勢	セル上下	水平~下向 54°(油圧シリンダー稼働方式)
	セル旋回	左右各 180°(油圧モータ稼働方式)
	セルEXストローク	1000mm
ドリフター	打撃力	20kgf-m
	打撃数	1600bpm
	回転力	14.7kgf-m
	回転数	150rpm
フィード装置	空気消費量	7.5m <sup>3</sup> /min (打撃機構+ブローにのみ使用)
	フィード方式	油圧モータチェーンフィード(油圧モータ直結・メカブレーキ付)
	フィード力	0~1000kgf
ガイドセル(長尺時)	フィード速度	0~7.0m/min
	ガイドセル全長	7013mm
	フィードストローク	5219mm
ガイドセル(短尺時)	ロット長	5500mm
	ガイドセル全長	5513mm
	フィードストローク	3719mm
本体寸法(水平時)	ロット長	4000mm
	全長	6985mm
	全幅	2004mm
重量(ガイドセル長尺時)	全高	1641mm
	重量	本体重量 1390kg (ツール39kg込み)
	適用バックホウ	0.5m <sup>3</sup> 以上の共用配管付

## 全体図



お問い合わせは下記へお申し付け下さい。

771024\_400\_TB